

【国語科実践例①】

二藤部由美

1 単元

一番悲しみが深い人物は誰かについてお互いの解釈を交流しよう
「大人になれなかった弟たちに……」（1年）

2 目標

一番悲しみが深い人物は誰かについて、行動描写や情景描写を根拠に説明することができる。

3 研究主題とのかかわり

視点① 生徒の疑問を生かした課題

視点② バッドモデルを提示し、評価規準を共有

4 指導計画

- (1) 作品を読んで疑問点を出し合う、それをオープンクエスチョン、クローズドクエスチョンに分類し、単元の課題を解決するうえで必要な疑問を選ぶ。
- (2) 疑問点について話し合う。
- (3) 「一番悲しみが深い人物は誰か」について根拠と解釈を明らかにして交流し、深まった考えを文章にまとめる。(タブレット)

5 成果と課題

- 初読の疑問点から単元の課題を解決するために必要なものを取捨選択させたことで、ぶれずに学習が進められた。
- 「自分と異なる意見の人を説得するつもりで」と反対派を意識させたことで、相手意識や必要感をもって学習を進めることができた。
- 意見、根拠、理由づけを考えさせる際にバッドモデルを提示し、生徒と評価規準を共有したことで、学習の見通しをもつことができた。
- △グループで交流する際にタブレットで他の生徒の書いたものを見られるようにしたが、1人分ずつしか表示されないために比較が難しかった。並べて表示できると思考が深まると思われる。
- △根拠の明確さや適切さ、根拠と意見を結び付ける無理のない理由づけという点については、まだまだあいまいな生徒が多い。本校の研究テーマに関わる場所なので、「思考のレッスン1」で補充する。

【国語科実践例②】

黒木 淑恵

1 単元 社会に目を向けて～論理的な展開の文章で自分の主張をまとめ、新聞に投書してみよう～ (2年)

2 目標 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、工夫することができる。

3 研究主題とのかかわり

視点① 新聞記事を教材として、実社会で起きていることを扱ったことと、「自分が興味を持てる内容を選ぶ」という自己選択。

視点② 意図的に困る場面、悩む場面を設定し、必要感のある話し合いの場をつくる。

4 指導計画

- (1) 社会のさまざまな課題に目を向けるための視点としてのSDGsについて知る。
- (2) 切り取った記事の中から、興味をひかれたものを一つ選び、ワークシートを使って整理する。
- (3) 自分の主張を支えるために必要な情報を探す。
- (4) 根拠→理由付け→意見(主張)となるように、適切な根拠を選び、理由づけを考える。

(5) 説得力のある(読み手にわかりやすい)構成・展開を考える。

(6) 600字以内で意見文を書き、新聞に投書する。

5 成果と課題

○SDGsを切り口とし、新聞記事を読んで社会的な課題を取り上げるのは、生徒の視野を広げ、多様な課題に目を向けさせるために、とても効果的だった。

○新聞への投書という、読者を意識して意見文を書く活動が、自分の意見をわかりやすく伝えたいという意識に繋がった。

△自分の意見をより説得力を持って伝えるために、複数の事実を組み合わせ、というのは、まだまだ難しいようだ。今後も作文やレポート、プレゼン等で意識して取り組ませ、経験を積ませていきたい。

△今回は、自分とは異なる意見や考え方について理解することという視点での学習はしていない。

「理解する」とことと「受け入れる」とことは違うこと、「理解する」とことによって自分の考えを深めたり広げたりできることを学習させていきたい。

【国語科実践例③】

須藤 恵里子

1 単元 『おくのほそ道』～芭蕉さんのものの見方や感じ方に触れよう～

(3年)

2 目標 歴史的背景などに注意して読み、古典の世界に親しむとともに、作者のものの見方や感じ方について現代と比較しながら考えることができる。

3 研究主題とのかかわり

視点① 主体的・協働的に学びたくなる探究課題の設定

現代の旅と作者の時代の旅を比較させ、旅に対する作者の覚悟や思いを考えさせる。

視点② 思考・判断・表現する場面の設定

グループで、あるいはクラス全体で考えを共有する場面を設定し、その際には、根拠となる表現を原文から探しながら説明できるようにさせる。

4 指導計画

(1) 原文を読み、作者と作品の概要を掴む。冒頭部分を暗唱する。

(2) 冒頭部分から読み取れる作者の旅に対する思いを考える。

(3) 「平泉」に関わる歴史的背景を踏まえ、作者の心情を掴む。

(4) 「平泉」に見られる「人間」と「自然」に対する作者のものの見方や感じ方をまとめる。

5 成果と課題

○多様な考えが引き出せる課題「みちのくへと旅立つ作者の思いや目的を考える」を準備したことで、様々な視点から作者の思いに迫ることができた。

○「原文の表現を根拠に」という条件を提示したことで、冒頭部分の表現に戻りながら考える生徒の姿が見られた。

△古典の学習の発展として、「俳句作成秘話物語」などの創作活動を入れたりしながら、古典の世界により深く親しむ時間などが設定できればよかった。